



こどもの「すくすく×わくわく」をおうえん

すべての乳幼児の  
「伸びる・育つ（すくすく）」と  
「好奇心・探究心（わくわく）」を  
応援する、幼保共通の  
プログラムです

園ふあん  
えん  
with 新 幼児と保育

2026年1月号  
別冊

# 「とうきょう すくわくプログラム」 丸わかりブック



# 「とうきょう すくわく プログラム」って、なあに？

子供たちがわくわくしながら遊び、学び、豊かな心を探究活動で育む「とうきょう すくわくプログラム」。この取組を東京都と連携して進めている東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター（CEDEP）の浅井幸子教授と野澤祥子特任教授に、そのポイントを伺いました。

子供たちをよく見て、その声をよく聴いてください



**なぜ今、すくわくプログラムで探究活動をするのか**  
野澤先生 自尊心などの自己に関わる心の力や、協同性などの社会性に関わる心の力（非認知能力）を、特に乳幼児期に育んでいくことが、子供の生涯にわたる心身の健康やウェルビーイングにつながるということが、さまざまな研究で明らかになっています。そういった心の力を、探究活動を通して育もうとしているのがすくわくプログラムです。  
浅井先生 もう一つの側面としては、「子供の声を聴く」ということが改めて着目されてきていることです。幼い子供でも自分なりの世界の見方を持っています。そうした子供観の転換と、非認知能力に着目するということ2つの流れが合流したところに、この探究活動があると思っています。

**探究活動を行うとき心掛けてほしいポイント**  
浅井先生 まず子供たちが何に関心を持っているか、何が好きかをよく見るのが大事です。まずはシンプルな設定でもいいので、「子供の声を聴く」ことを大切にしてください。環境設定では、出会ってほしいものが際立つようにするのがポイントです。

野澤先生 例えば、白い紙に拾ってきた植物を並べるだけでもいいのです。普段ならぞんざいに扱うものも、そうすることでよく観察するようになります。  
浅井先生 「葉っぱを拾いに行きましょう」とビニール袋を持たせてしまうと、掃除みたいになってしまうって帰ったりもするのですが、「本当に気に入ったものを1枚持って帰ろうね」と声掛けをすると、子供の葉っぱとの関係が変わってきます。先生の「問い掛け」と「提案」も環境を構成する要素ですね。難しく考えるよりも、子供に何と出会ってほしいのか、どう出会ってほしいのかを考えてください。  
野澤先生 出会った時にどういう反応があったか、記録して振り返るのも大事ですね。大人はつい推測してしまいがちですが、子供の表現を拾っていくことで、子供の発見や気持ちをより精緻に捉えられたりします。  
浅井先生 たとえ1歳児クラスの子でも、言葉で問いかけたら

何か返ってきます。私たちが思うより、幼い時から言葉でもやり取りができるんです。  
野澤先生 対象との出会いのときに、子供を手伝ってあげたくなってしまうと思うのですが、待つことも必要です。また、探究活動では、子供たちに大胆に聞いてみるのも面白いと思います。「光って何だろう」「風って何だろう」といった問い掛けにも、子供たちはさまざまな考えを話してくれると思います。

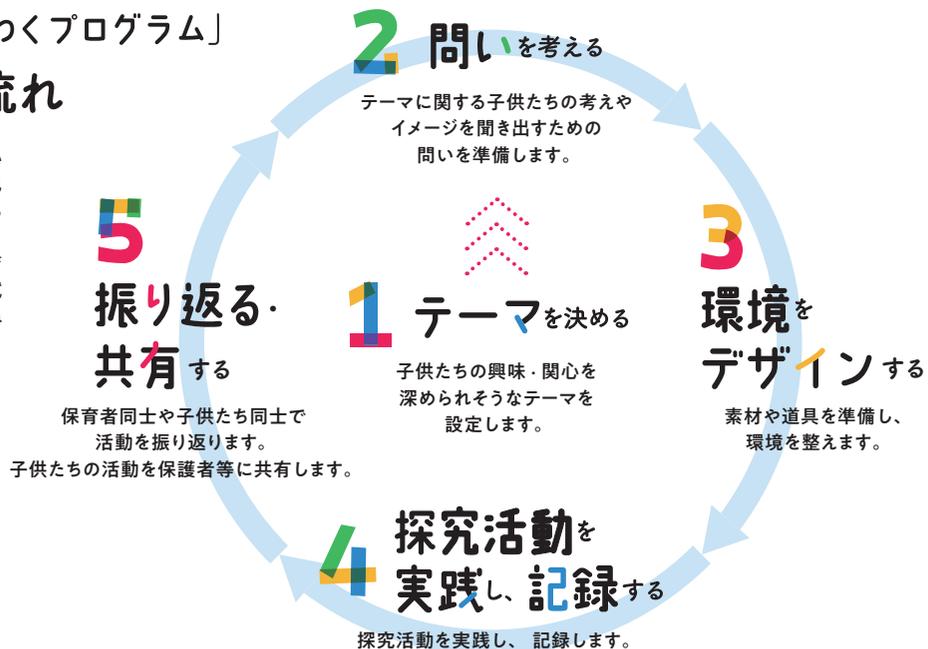


待つことも大事。子供に大胆に聞いてみても

浅井幸子先生 野澤祥子先生  
東京大学大学院教育学研究科 附属発達保育実践政策学センター長 教授  
東京大学大学院教育学研究科 附属発達保育実践政策学センター 特任教授

## 「とうきょう すくわくプログラム」探究活動の流れ

子供が何を好きか、何に関心を持っているか、子供をよく見て、子供の興味関心を深められそうなテーマを設定します。子供たちは、子供同士や保育者との関わりの中で遊び、試し、考えながら「探究」を重ねていきます。



こんなことに悩んでいます！

## すくわくプログラムQ&A

自園で取り組むには活動内容が難しそうです



**A** 大規模な準備が必要なイベントではないので、例えば、0歳児だと鏡を置いてみるとか、シンプルな設定から始めましょう。単発のイベントをするのではなく、子供の声を聴きながら、それを記録して次の活動を考えていくサイクルが重要です。

わたしが答えします



子供の探究心をくすぐるにはどうしたらよいでしょうか？



**A** 答えがある活動だと、答えにたどり着いて終わりということもあるため、答えが一つではない問いを意識してみるとよいかもしれません。例えば、「ぐるぐるってなんだろう」という問いであれば、日常の中のぐるぐるしたものに見えようになり、子供からいろいろなアイデアがわいてくるのではないのでしょうか。

わたしが答えします



～2回目の活動～

2 問いを考える

1回目の探究によって、園内にはさまざまな「穴」があることが分かったので、穴の「鑑賞会」をして、見つけてくれた子供にその穴がどこにあったものなのか、どのようにあった穴なのかを紹介してもらうことにしました。そして穴の種類によって仲間分けしてみようかと提案することに。

3 環境をデザインする

「穴」の写真を映し出すためのスクリーンとプロジェクター、仲間分けをするためにフープを用意しました。



4 探究活動を実践し、記録する

子供たちは「なんのためにあいている穴なのか」を話し合い、大きさや形ではなく「理由」で仲間分けしてフープの中に写真カードを入れていきました。



5 振り返る・共有する

園内で出会った穴は「カギの仲間」、「土の仲間」、「水の仲間」、「ボタンの仲間」、「仲間ができない仲間」の5つに仲間分けできました。穴について深く探究したことで、子供たちは「穴には理由がある!」ということを発見。子供たちが自分の発見を楽しそうに友達に伝えていたことから、次は、幼稚園のみんなにも仲間分けした穴について伝えるためのポスター作りをすることになりました。

探究活動の事例を紹介

テーマ 穴(5歳児)

彰栄幼稚園の方針は自由保育なので、普段から子供の興味関心から始まる遊びを大切に保育を行っています。「ときょうすくわくプログラム」では、探究の楽しさを実感し遊びを深めること、さらに保育者の視点を豊かにすることを目指しています。



彰栄幼稚園  
(文京区)

教頭  
田中なな子先生



5 振り返る・共有する

活動後、担当保育者が記録していた穴探しの様子の写真や動画を見ながら振り返りを行いました。予想以上に子供たちが一つひとつの「穴」に関心を持ってくれたことから、次の活動として、今回見つけた穴を子供たちと一緒に鑑賞しながら話し合おうという方向性に決定しました。



回を重ねるうちに、普段おとなしい子供も活発に意見するように。継続の大切さを知りました。(田中なな子教頭)

振り返りツール

活動報告BOOK

活動内容をまとめたフォトブックを保護者の方にも配布



2 問いを考える

「穴」について子供たちと考えを深めていく入口になるような問いは何がよいか考え、「どこに穴があるかな?」という問いを設定。身のまわりにあるいろいろな穴を探してみる活動をするにしました。

1 テーマを決める

子供たちが大好きな絵本「はなのあなのはなし」を出発点に、身近にいくつも存在する穴であれば、「この穴はなんだろう?」と探究を深められるのではないかと考え、「穴」をテーマにしました。

5歳児のテーマ

「穴」



子供が夢中になれるだけでなく、大人も面白いと感じるテーマを選んだことで、子供とわくわくを共有しながら進められました。(荒木みどり彰栄保育福祉専門学校専任講師)



4 探究活動を実践し、記録する

子供たちがどこに向かってもいいように準備するだけでなく、一緒に考えていく探究活動は私にとっても勉強になりました(中川和音先生)



4~5人の少人数グループを3つ作り、子供たちの気付きをしっかりとキャッチできるように体制で探究活動をスタート。園舎の廊下、園庭、テラスの3カ所に分かれて「穴」探索へ。見つけた穴は排水溝やコンセント、マンホールのふた、葉っぱの虫食いなど多種多様で大変盛り上がり、時間を忘れて探し続けていました。見つけた穴はタブレットで撮影し、写真に残しました。



3 環境をデザインする



双眼鏡で穴探しの集中力UP!

まず絵本を読み聞かせて、その後「穴」探しに出かけるという流れを想定し、園内にどんな「穴」があるのかを確認。危険なものはないか下調べをしました。さらに「これから探究するんだ!」という動機付けに厚紙で作った双眼鏡も用意しました。

5回目の活動  
「穴を作ってみよう!」

11月  
中旬

4回目の活動  
「ポスター作り②」

10月  
下旬

3回目の活動  
「ポスター作り①」

10月  
中旬

2回目の活動  
「穴の鑑賞会」

9月  
下旬

1回目の活動  
「穴を探してみよう」

9月  
中旬

テーマを  
決める

9月  
中旬

Schedule of Activities  
活動スケジュール

～2回目の活動～

2 問いを考える

紙飛行機の素材や折り方によって飛び方や飛距離が変わることに興味を持った子供たち。本で作り方を見ながら、さまざまな紙で紙飛行機を作って飛ばし楽しむ姿を見ていたことから、「どうしたら、遠くまで飛ばせるのか」を探究してもらおうと考え、目印を用意して投げ方を工夫できるようにしました。

3 環境をデザインする

コピー用紙や画用紙、子供たちが作ったマイ紙飛行機、紙飛行機を飛ばすコースづくりのためのテープ、数字のボード、フープなどを用意。



4 探究活動を実践し、記録する

「どれが一番飛ぶかな?」「7番(のボード)まで飛ぶかな?」と、友達と競いながら投げ方や折り方、素材をいろいろと考え楽しんでいました。



5 振り返る・共有する

自分で設定した目標距離まで紙飛行機が飛ぶように、子供たち同士で投げ方や折り方を共有したり、どうやったら遠くに飛ぶのか話し合ったりしながら取り組んでいました。その後も、「風」と「紙飛行機」を題材にした活動が続いていきました。

探究活動の事例を紹介

テーマ 自然を感じる～風～(4歳児)

子供たちの興味や関心を広げ、探究心を育てながら、保育者側も子供たち一人ひとりへの理解を深めていきたいという思いから、「とうきょうすくわくプログラム」を始めました。



品川 保育園  
(品川区)

園長 柳本直樹先生

1 テーマを決める

紙飛行機が大好きな子供たち。子供たちが室内で紙飛行機を飛ばして楽しんでいる時に、部屋の天井扇の風と紙飛行機の動きに興味を持っていた姿が見られました。また、品川保育園はビルに囲まれ自然に触れる機会が少ないことから、子供たちに自然の面白さに気付いてほしいという願いも込めて、テーマを「自然を感じる～風～」にしました。

4歳児のテーマ  
「自然を感じる～風～」



普段の生活や遊びの中で子供たちがつぶやいた言葉を拾い、「どうしたらいいと思う?」と投げ掛け、一緒に考えながら準備を進めました。(君島祐子副園長)



2 問いを考える

「風ってなんだろう?」と考えるきっかけになるように、子供たちが実際に風を浴びたり、目に見える形で風を感じるような活動をしていくことにしました。

3 環境をデザインする

より風を近くで感じられるようにサーキュレーターを用意。また、風がどのように流れているのかを可視化するための工夫としてテープも用意しました。子供たちがいつでもおり紙飛行機を飛ばしているタイミングで、サーキュレーターを登場させました。



風の流れるを視覚的に感じる子供たち

振り返りツール

ドキュメンテーション  
子供たちの探究の様子を写真と文章で記録



活動の方向性について、1年間の見直しを持っていましたが、子供たちの発想やつぶやきからどんどん変化していきました(金子茜先生)



5 振り返る・共有する

子供の取り組みを観察し、表情から読み取ったことを電子連絡帳システムのドキュメンテーション機能で保護者と共有したり、動画で記録したものを全職員と共有し振り返りを行ったりしました。活動の中で、紙飛行機が風の流れるに乗ると遠くに飛ぶということに子供たちが興味を持っていたことから、次回の活動では、紙飛行機の飛距離に着目した活動をするにしました。

4 探究活動を実践し、記録する

「これがあるよ」と用意していたものを出すのではなく、子供たちから「ちょうだい」という言葉が出てくるのを待つようにしました(君島祐子副園長)



サーキュレーターの風に顔や手を当てたりして思い思いに風を感じていた子供たち。「扇風機があると紙飛行機が飛びやすい」と言い、吹き出し口のどの場所に紙飛行機を置くと飛ばしやすいかを確かめながら繰り返し挑戦していました。タブレットを2台設置して、動画や写真撮影を行い、記録しました。



風に揺れているテープを見て、「紙飛行機をつけたい」という発言も

6回目の活動 「外で紙飛行機を飛ばそう」	2月	5回目の活動 「飛行機を見に行こう」	1月	4回目の活動 「もっと風を感じよう」	12月	3回目の活動 「風がたくさん吹いてきた」	11月	2回目の活動 「どれが、どこまでとぶかな?」	10月	1回目の活動 「風を感じてみよう」	9月	テーマを決める	9月初旬	Schedule of Activities 活動スケジュール
-------------------------	----	-----------------------	----	-----------------------	-----	-------------------------	-----	---------------------------	-----	----------------------	----	---------	------	------------------------------------

## 「とうきょう すくわくプログラム」をもっと知りたい方は 専用サイト「すくわくポータル」をご覧ください。

とうきょう すくわくプログラムは、東京大学大学院  
教育学研究科附属発達保育実践政策学センター  
(CEDEP)との協定の下、東京都の「とうきょう すく  
わくプログラム推進事業」として策定したものです。



すくわくポータル

●本誌内容の無断転載はご遠慮ください

発行／株式会社こどもりびんぐ

<PR>問い合わせ 東京都子供政策連携室企画調整部企画調整課

Tel.03-5388-3812

2025年12月発行